

恐怖度80%、寒さ100%

八ヶ岳 横岳石尊稜

当初は谷川岳東尾根の予定だったが、3/16より群馬県谷川岳遭難防止条例に基づき「危険地区の登山禁止」期間となってしまった。早すぎる…。ということで八ヶ岳の日帰り弾丸ツアーに変更した。

【日程】

2018年3月17日(日)

【メンバー】

佐藤り(主)、吉澤、梶田

【地形図】

八ヶ岳西部・八ヶ岳東部

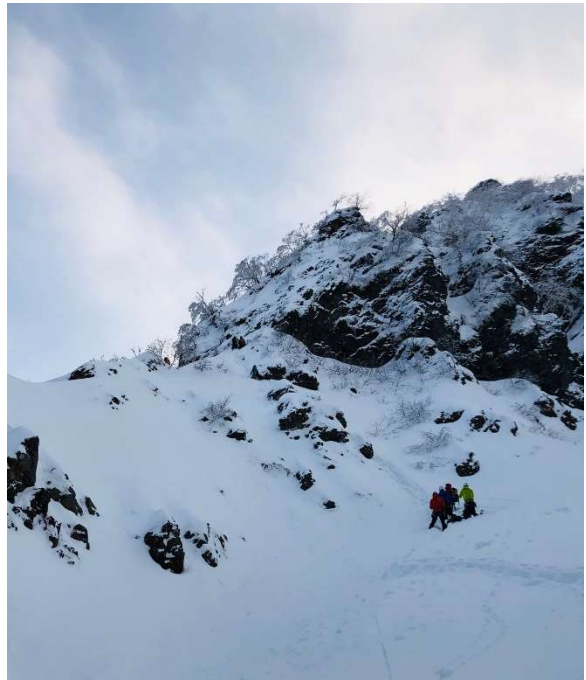
【記】佐藤

いつもの道の駅で前泊し、夜が明ける前から赤岳鉱泉に向かい歩き出す。鉱泉につく頃は辺りも薄明るくなり、既に多くの登山者が出発の準備をしていた。

私たちが続いて出発すると、石尊稜は既に2パーティが先行していて最初のパーティが2ピッチ目(1ピッチ目は普通に登れる)の登攀を始めたところだった。これは何時に順番が回ってくるのだろう、午後には天気が荒れるので早めに取付きたいが…。

とっていたら吉澤君が左のラインを見つけ、取付きまでラッセルして横から登攀する。しかし見た目より悪く、雪を払いながら、それでもじわじわと進んでいく。おかげで2番手に浮上した、すごい吉澤君。

後続の梶田君は初の雪稜(というか雪の岩稜)のため若干緊張しているように見えたが、それでもきっちり登っていく。



石尊稜取付きにて

最初の核心は終わりだが、ロープはつないだまま進む。途中私がへんてこなところでピッチを切ったため残りを梶田君がリードしてくれた。はじめてなのにありがとう、梶田君。

前半の岩壁を越えたあたりでだんだん雲行きが怪しくなり、予報通り吹雪となった。そんな中第二岩壁の取付きでまた順番待ちだ。こんな悪天候なのに大勢の人が同じ場所にいるって少し不思議な感覚だ。横から下から吹きつける雪煙とアラレの中じっとうずくまって寒さに耐えながら立ちすくむそのみんなの姿はまるで南極の皇帝ペンギンのようだった。

やっと順番がやってきてここで再び吉澤君が登場。苦勞しながらも岩壁を攀じ登る。しかも他のパーティが迂回しているところもまっすぐ直登だ。ルートはよく見てないみたいだけど登れるからすごい。梶田君は弾丸のようなアラレに顔をたたきつけられながら、寒さと恐怖でさらに悲壮な姿で後に続く。がんばれ、ここで踏ん張っておけば後でどの山に行っても「石尊稜よりまし」と思うに違いない。

核心の岩場を越え、稜線に登りつめ石尊峰に到着！感動したいがそれよりも早く風のないところに行きたい。

しかし下山もまた遠い。先行者の踏み跡は見当たらず（硫黄方面に下山したのかな）、迷いながらルートを探し地蔵尾根に到着。その後も枝尾根に迷い込みながら、最後はGPSでルートを判別し、ようやく樹林帯に入ったときは今までバリバリに凍っていたまつ毛や鼻水がゆるゆる溶け出すのを感じた。

久しぶりに身も心も引き締まる寒い寒い山行だったが、終わってみればいい山だったと思ってしまう。人間ってポジティブだ。

【行程】

3/17 赤岳山荘(3:30)～赤岳鉱泉(5:30)～石尊稜取付, 1P (6:55/7:55)～稜線(14:00)～行者小屋(16:30)～赤岳鉱泉(18:00)